

《担当者名》○田村至 tamurait@hoku-iryu-u.ac.jp 若松千裕 小林健史 飯泉智子 前田秀彦

【概要】

言語聴覚障害学の入門として、言語聴覚障害学の学問背景、基礎的知識と言語聴覚士の職務の基本的事項を学ぶ。専門各論・演習への導入となっている。

【学修目標】

<一般目標>

リハビリテーション専門職として必要な科学的知識や技術を備えるために、言語聴覚障害学、言語聴覚療法に関する基礎的知識を理解する。

<行動目標>

1. 言語聴覚障害学の学問背景と基本的事項について説明できる。
2. 言語聴覚障害の定義、原因、症状、評価・鑑別診断、代表的治療法を理解し、説明できる。
3. 言語聴覚士の職務および言語聴覚療法の基本概念、臨床を理解し、説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	コミュニケーションと言語聴覚障害の種類（ことばの鎖）	田村至
2	言語とコミュニケーション	コミュニケーションと言語聴覚障害の種類（ことばの鎖）	若松千裕
3	言語とコミュニケーション	言語音と産出機構 聞こえと聴覚機構 言語と脳	若松千裕
4	言語聴覚療法の歴史	言語聴覚療法の歴史	若松千裕
5	言語聴覚障害の臨床	言語聴覚障害の臨床：失語症 / 高次脳機能障害	田村至
6	言語聴覚障害の臨床	言語聴覚障害の臨床：言語発達障害	小林健史
7	言語聴覚障害の臨床	言語聴覚障害の臨床：言語発達障害	小林健史
8	言語聴覚障害の臨床	言語聴覚障害の臨床：発声発語障害 / 摂食嚥下障害	飯泉智子
9	言語聴覚障害の臨床	言語聴覚障害の臨床：発声発語障害 / 摂食嚥下障害	飯泉智子
10	言語聴覚障害の臨床	言語聴覚障害の臨床：聴覚障害	前田秀彦
11	言語聴覚障害の臨床	言語聴覚障害の臨床：聴覚障害	前田秀彦
12	言語聴覚士の職務	言語聴覚療法：基本理念、ICF	若松千裕
13	言語聴覚士の職務	言語聴覚療法：関連職種連携 家族・地域支援を含む	若松千裕
14	言語聴覚士の職務	言語聴覚士と倫理およびリスクマネジメント、臨床業務のあり方	若松千裕
15	まとめ	総括	若松千裕

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

課題40% 定期試験60%

【教科書】

藤田郁代 他 編 「標準言語聴覚障害学シリーズ・言語聴覚障害学概論（第2版）」 医学書院 2019年

【備考】

事前準備 8, 9（飯泉担当回）に受講に関する注意事項

ICT機器を持参してください。* ICT機器とは、HNNETに接続でき、zoom, Glexaにアクセスし、テキストデータの送受信、画像・動画・音声課題を視聴できる機器（PCあるいはタブレット端末など）

9月5日までにGlexa (<https://glexa.hoku-iryo-u.ac.jp/>) にログインし「言語聴覚障害学概論」のクラスが表示されていることを確認してください。表示されない場合は、9月中に飯泉 (i-zumi@hoku-iryo-u.ac.jp) までメールでご連絡ください。メールタイトルには「言語聴覚障害学概論Glexaクラスについて」を明示し、本文に学生番号、氏名、表示されないことを書いておくてください。

【学修の準備】

予習では、講義内容を確認し、教科書を読み、専門用語を調べ理解しておくこと(80分)。

復習では、教科書と講義で配布された資料を整理し、講義内容の理解を確実にすること(80分)。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

(DP2) 最新のリハビリテーション科学を理解し、保健・医療・福祉をはじめとするさまざまな分野において科学的根拠を有する専門技術を提供できる能力を身につけている。

(DP3) 言語聴覚士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

【実務経験】

田村至(言語聴覚士)、若松千裕(言語聴覚士)、小林健史(言語聴覚士)、飯泉智子(言語聴覚士)、前田秀彦(言語聴覚士、臨床検査技師)

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での臨床経験を活かし、言語聴覚士の関わる領域に関しての基本的知識および言語聴覚士の職務について講義する。